

第2回小牧市教員の多忙化解消推進委員会会議録

1 開催日時	令和4年12月19日(月) 午前10時00分から
2 開催場所	小牧市役所本庁舎 301会議室
3 出席	近藤委員長、松浦副委員長、前原委員、稲垣委員、池田委員、光部委員、梶田委員、加藤委員、江本委員、伊藤委員
4 欠席	舟橋委員
5 事務局	■学校教育課 采女管理指導主事、大久保指導主事 ■教育総務課 小川課長
6 傍聴者	0人
7 議題	(1) 小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について (2) 教職員の働き方改革保護者向け文書について (3) その他

<開会 午前10時00分>

1 開会

(大久保指導主事)

皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今より、「第2回小牧市教員の多忙化解消推進委員会」を開会いたします。

安部学校教育課長が欠席させていただいておりますので、本日代わりに司会を務めさせていただきます指導主事の大久保です。よろしくお願いいたします。

<資料確認>

まず始めに、本日の資料を確認させていただきます。

・次第

・学校現場における業務改善に係るアンケート調査結果概要

・教職員の働き方改革保護者向け文書

・座席表

でございます。

不足などがございましたら、お申し出ください。

傍聴について

本委員会は、先回確認させていただきましたが、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づきまして開催するものでございます。そのため、個人が特定可能な議題などを除いて原則公開として開催させていただきますが、本日この会議の傍聴者は、おりませんのでよろしくお願い申し上げます。

それでは開会にあたりまして、采女学校教育課管理指導主事よりあいさつ申し上げます。

(1) あいさつ

(采女管理指導主事)

改めまして皆様おはようございます。今朝名古屋地方もマイナスを観測するということで、まさに冬本番ということになってまいりました。インフルエンザも含めて、コロナウイルスの感染も衰えを見せることなく、学校現場では学級閉鎖等もでてきております。

国が、部活動の地域移行の対応を見直おすという報道がありました。学校が今中心となっている部活動を地域に移行していくということで、令和7年度をめどに進めておりましたが、スポーツ庁、文化庁のところから、性急に進めるには課題が多すぎる。来年度については一旦立ち止まってということになりました。この先の状況については不透明なところもありますが、教員の多忙化解消という視点においても注視しなければなりません。今日議論をしていただく教職員の多忙化の解消もなかなか一足飛びにかなうものではなく、様々な課題がありますし、何より教職員の多忙化を解消することと、子供たちの活動を担保することの両輪を考えなければなりません。

第1回に引き続き第2回の会議になりますが、前回同様に皆様から忌憚ないご意見をいただきまして、教職員の多忙化解消に一步でも近づけるように会を進めて参りたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

(大久保指導主事)

続きまして、近藤委員長より申し上げます。

(近藤委員長)

皆さんおはようございます。小牧中学校の近藤でございます。よろしくお願いしま

す。本日は師走の大変お忙しい中、本会にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

先ほど采女管理指導主事から話がありました部活動の改革についてですが、文科省が夏の概算要求で請求していた予算の半分しかつかない方向だということで、なかなか事業がそのまま認められる方向にはいかなさそうです。

現場を見ますと、本校もそうなんですけれど、コロナの感染者は相変わらず多いままなのですが、そうした中で去年と一番違うなと思うのは、学校でもウィズコロナの生活が始まっていて、感染対策をしながらも今まではできないねと言っていた活動を再開する方向になってきています。そうすると、やはり今まで以上に教員の手間暇や気づかいというのは必要で、なかなか見えていて楽にならないなというのは感じます。本校の在校時間を見ましても100時間を超える者がおり、本当にこのままだとダウンをしてしまうよという声をかけるんですけど、声はかけつつなかなか効果的な改善策を示せずに、管理職として歯がゆいなあという思いをもっています。

今日は第2回目の会ですが、教員の多忙化解消、心身の健康安全を守るという点で、何とか一つでも二つでも現場で生かせるいいアイデアを皆さんから出していただけるとありがたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

委員の紹介

(大久保指導主事)

本日、舟橋委員は欠席でございますのでよろしくお願いいたします。

2 議題

(大久保指導主事)

それでは、ここからの会議の取り回しにつきましては、近藤委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(1) 小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について

(近藤委員長)

それでは、司会を務めさせていただきます。

議事1、学校現場における業務改善について事務局より説明いただきます。よろしく申し上げます。

<事務局より「学校現場における業務改善に係るアンケート調査結果概要」の説明>

(近藤委員長)

説明ありがとうございます。まず今の事務局側の説明について何か質問等ございますか。それでは今説明のあったことを踏まえながらになります。それぞれの職場の現状等を踏まえながら、ご意見がいただけるとありがたいと思います。こういうところは小牧でもやっていけのではないかと、もう一歩進めた方がいいのではないかなどのご意見がありましたら。それでは加藤委員、口火をきっていただいてよろしいでしょうか。

(加藤委員)

下呂市でしたか。中学校の下校時刻を16時半にして、部活動もそこで終わって下校するというのは。これを市全体の取り組みとするのはなかなか難しいとは思いますが、小牧市はほとんどが遅くても17時ですか、中学校は。16時半もありますか。

(伊藤委員)

早い時期の下校時刻ですか。冬場の現在は16時15分です。

(加藤委員)

それが年間を通して下呂だと16時半というような形で、それも一つの取り組みでやろうと思えばできないこともないのかなと思いますが、大会前などは中学校も困るかなとは思いますが。あと、小学校はもう前々から登校時刻と教員の勤務開始時刻を合わせましょうということでやっているのですが、本校も子供たちが7時50分から8時10分に登校。しかし、勤務開始は8時15分からというような体制になっています。来年度は何とか8時から8時10分の登校にしていきたいなと思ってるんですけど、そのためには保護者の理解、特に一年生だと子供を置いて出勤するのかなという保護者もおみえだと思うので、そうした部分を何とかこの会から発信ができるようなものが出せるといいのかなとは思いますが。中学校の下校時刻と、小学校の登校時刻、この二つは割と変えやすいかな、やりやすいかなと思うのですが、どうでしょう。

(稲垣委員)

実は今日ニュースでそれをやっていたんですね。名大の教授がそういう議論をやっていたんですけど、保護者としては、すみません。すみませんの意味はご察いただければというのがあって、前も似たような言い方をしたんですけど、会社員という形の概念からの考えとしては、統一が正しいと思っていて、折り合いつけるなんてちょうどさきほど言ってたんすけれども、人ありき、マンパワーの問題しかないなと思っていて、着地点の一つが。もう一つはオンラインとかそういうIT化って

う部分のことになると思います。おそらくこの二つの要素かなと。それを、さっき予算が半減したというのを聞いて何か言いにくくなったんですけど、そこにどうもっていくのかという部分、それが1年後にできること、5年後ではできないことというものにしていくことかなと思います。

ちょうどある地区、ある県で、一つは2020年から始まったプログラミング事業という部分について、小学生は1年間に3コマぐらいやっておけばいいということで現場の人から情報をいただいたんですけど、でも実際3コマといっても3時間だけこなすために、先生たちは準備などの作業とかがおありだと思うんですよ。そうすると実質、3コマのためにもしかしたら10コマ分とか作業しなければいけない。それ以外に、今のプログラミングだとかICTなどの手続きも覚えなければいけない。iPadなども覚えなければいけない。おそらくその分が残業に出してしまうのではないかなという気はしています。そこで、奈良県の葛城市の方では、他のところにアウトソーシングの形でとって、その分を、3コマだけですけれどそれに伴う他の作業分もなくなるので、増えないのでということで、実施されている地区があるそうです。

部活動の件は、たしか名古屋市だと思うんですけど、名古屋市が他のところに依頼をしている。他といっても実際おそらく元OBの方々かなって気はするんですけど、そのように載ってましたので、おそらくそちらに軸をとっていくっていうのが一つのやり方で、予算があるので小牧市さんがそれができるかそこまで調べてないものですかすみません。そういった軸が一つと、後はもう絶対にITの方に乗り切っていないといけないので、それをしっかり覚えていくっていう部分でICTの職員ですかね。でも前回もらった資料を見ると、スクールソーシャルワーカーだとかそういうところはしっかり活用できているけれど、ICTの方は30%か20%ぐらいしかなかったんで、その辺の取り組みの仕方がもう少し必要なのかなと思います。

(近藤委員長)

今プログラミングの話などが出て、小学校なんかは特に意識はされてると思うんですけど、梶田委員どうですか。

(梶田委員)

どの教科でプログラミングに取り組むかっていうことは教務主任を中心に、いわゆるレゴを使ってロボット動かすということではないところ、要するにアルゴリズムを使って論理的に物を考えるということによってやることっていうことで、負担がないように、できる範囲でやろうということとは本校でも取り組んでいます。

ICT支援員さんをうまく活用できているのかなと思うので、非常にそういう部分では支援していただいているということはかなり大きくあります。ですので、そう考

えるとICTだけに限らずですけど、人が欲しいのは、現場のせつなる願いかなと思っています。

(近藤委員長)

この間11月の在校時間記録については、県から降りてきた業務内容分類する調査と2種類あったんですけど、あれを見ると、意外なほど分掌業務のところでは教員が残業しているんだということが数字で出ているんですね。部活動よりも。今は冬のこの時期なので、部活動の活動時間が短いものですから。ただ、今でも在校時間記録を調べると、45時間オーバーだとか80時間オーバーが結構いる中で、足し算してみると、分掌業務のところはどの学校もすごく多いんですよ。何でそんなにみんな忙しく残っている状況があるんでしょうかね。江本委員の学校などはどうですか。

(江本委員)

まさに同じ意見で、うちは例年に比べると少し生徒指導がたいへんではなかった。思ったよりも少なく、やはり近藤先生が言われているように分掌事務と、あと11月ではなく10月なんですけど、今年度けっこう部活動が強くて、県大会とかそういう上に行く部活動が多くて、部活動の活動時間がものすごく多くて、例えば100時間超えの人も100時間のうちの60から70時間が部活動になってしまっている感じなんです。今年度、自分がいろいろな事情で1週間休んだときは、1ヶ月の自分の在校時間は45時間を切りました。しかし、11月、1人の職員が原因不明のけがという痛みがあって、1週間ほど休んだんですけど、その職員は11月に100時間超えをしていました。ということは、結局その1週間休んだ仕事を全部復帰してから、やはり分掌業務をしているということでした。ちょうど先日、何をしていたのかなと聞いたら、授業研究よりも、自分でも何かよくわからないとはっきり言っていました。何か自分のこだわりでずっとやっていて、削れるものはないのと聞いてみました。例えば、生活ノートを見るだとか。しかし、なかなか本人も、何が一番その分掌業務の中でもたいへんなのかっていうのを理解できてない部分があるみたいで。自分は授業がないので、分掌業務は時間内にできていますが、先生たちはやはり最終下校以降にやっているのだから、答えにはならないですけど、本校は分掌業務は部活動と二分する位の感じだと思います。

全然違う話で二つお願いします。先ほど保護者アンケートをオンライン化していますかというのがありましたけど、本校では学校評価を去年からFormsを使ってやっているんですが、去年教頭になって初めてやってみて一番感じたことは、紙の回答用紙に答えてもらって、マークシートで集計していたときの提出率を何%かはっきり覚えてはいないんですが、かなりよかったと思うんです。しかし、昨年度本校の保護者か

らの提出率は66%でした。子供と職員はロイロノートで一気にやってしまうので、ほぼ100%なんですけど、なぜなんだろうと思ひ、今年は本校には外国籍の方が大体70人くらいいるので、タガログ語、スペイン語、ポルトガル語に学校評価アンケートをかなり早くから翻訳してもらひ、全員の子供から親に渡るようにしました。それがよかったかどうか正直よくわかりませんが、今年は昨日で締め切ったところ、73~74%いって、だから少しは外国籍の方が意味がわかってやってくれたのかなと。あとは配信メールで最終日ですのでよろしくお願ひしますと送ったので少し伸びたのかなと思うんですけど、なかなかそのオンラインだと、学校評価じゃなくても十分な回答率にはならないよと言われていて、どれくらいが目指すボーダーなのかなと、評価する以上、余りにも少ないとやはりいけないのかなと。

あともう1点なんですけど、先ほど現在も19時からというのは、次の資料2の方にもまた去年と同じようにあるんですけど、やはりうちの学校で一番気になるのは、自分自身もそうなんですけど、他市町を聞いてみると、最終下校時刻に応じて電話を留守電にする時間を早めているという市町もあるみたいで、例えば現在16時15分に子供が下校すれば、その登下校の間で何かあったとしても17時には家に着くだろうと。そうすると17時に留守電には言わないまでも、例えば冬季は18時にするとか、そういうことをしてもらえると。結局本校は生徒指導とかが多い学校でしたので、電話をずっと繋いでいるとどうしてもそこにいろんな電話がかかってきて、結局それに対応しなければいけない。今年はそれほどでもないんですけど、そういうことを考えると、将来の本校のことを思うと、できれば夏季と冬季で少しその時間を変更してもらえるといいなあとお思います。学校としてはそのような意見はあります。

(近藤委員長)

今何人かの委員から学校現場の様子を聞いていただいたと思うんですけど、教職員以外の委員の皆さん、今の話を聞いてみて、何かご意見なり質問なりありますか。

(光部委員)

地域コーディネーターをしております光部です。先日も行われました、青少年健全育成会ですとか、地域の方を招いての会議、それについての出席ですか、それとも欠席ですかという、その集計を取った後に、資料をペーパー化しているので、先ほどお話がありました文書の作業が、先生方にはとても負担ではないかなということを感じております。また、日曜日に行われましたので、先生方については勤務外の日ということになるので、その点もかなり負担がかかっているのではないかなと。生徒指導主事の先生は、しかもその日は午前中に市民駅伝がありましたので、早朝から続けての、日曜日丸1日勤務という形になってしまっているの、かなりの負担ではないかなと

感じております。それで、教頭先生にも少しお話をしまして、すべての地域の方を招く必要はないのではないかと、ある程度人数を減らして、資料等も少なくするなり、オンライン化するなりという手間を省くような形をしてはどうですかと提案したんですけど、なかなか古い土地柄ではあるので、皆さんが電話ですとか、文章を送ったりですとか、出席欠席のはがきを送ったりですとか、そういうことはなかなかやめられないというお返事は一応いただきまして、何かもしここで皆様の地域の方で何か工夫していらっしゃる点があれば教えていただきたいなと思います。

(近藤委員長)

松浦委員、区長さんの立場で、出欠の確認などされる側の立場ですよ。

(松浦委員)

はい。今はすべてアンケートなど、そういうものはスマートフォンなどでやっています。

(近藤委員長)

進んでいるところもあるんですね。

(松浦委員)

もう全部これですよ。区民や区の役員と同じですが、我々と各区長さんはすべてこれで行っています。アンケートもすべてやっています。

(近藤委員長)

そうすると、意外と学校が変な気を使っているだけで、それでお願いしたいというふうにすれば、区長さんたちも協力をいただける環境なんですね。

(松浦委員)

はい、これですべてやっています。だから、アンケートなんかも行政は楽ですよ。集計をしなくてもいいです。

(光部委員)

提案をしてみたいと思います。

(松浦委員)

やはり僕が思うのは、教育界というのは特殊なんですよ。一般の民間企業とは全然違うんですよ。民間企業はある部分はトップダウンでもできますし、ある部分はボトムアップでもやるんですが、もうこの教育というのは、僕もよくわからないんですが、例えて言えば、このような議題を校長会で全校長さんが集まってやるだとか、あるいは教頭さんが集まってやるだとか、教務主任がやるだとか、そういうことはやられているんですか現実、小牧市は。

(近藤委員長)

このためだけに特化して、校長が集まるということはないんですけど、集まったときに、このようなことを議題にすることはあります。

(松浦委員)

誰かが指示しないと、何事も進まないんですよ。どんな組織でも。

(稲垣委員)

結局今二つの質問になってしまったんですけど、一つは親として、今欠席などの連絡のために保護者連絡アプリに入れて、これは便利だと思います。先生たちも便利でいいですかね。

(伊藤委員)

はい、便利だと思います。

(稲垣委員)

1点私が親で知らなかったのが、時間外はこの電話番号にと書かれている部分が、これは先ほど江本委員がおっしゃっていただいたように、早い時間に電話が繋がらなくなってもいいと思っています。親としてすべて電話する内容が、すごく重要なものではない。しかし、重要なものもあるんですね。そのときに、やはり親として焦ってしまうので、必ずここに連絡すればいいですよと。それこそ110番や119番のようなアナウンス。他の番号もいろいろあると思うんですけど、そうした番号が明確に親としてわかっている状態にだけしてもらいたいというのが一つ。それから学校にこのような決まりがあるんだというのが、私の妻の方は知っているかもしれないんですが、一応父親も親として、家族で知らなければいけないので、こちらにも何か全部わかるようになっていけばもうこれでいいと思っています。これをうまくどんどん推奨してもらえたらと思うのが一つと。あとちょうどおっしゃっていた、案として小牧市とかどの市区分も、市全体である程度同じ方向に動かなければいけないという決まりというか、そのような雰囲気があると思うんですけど。おそらく決まりだと思うんですけど。それを学校ごとに試験的にやれるような体制ができれば、いいか悪いかわかりませんが、試験導入という部分でやってみるというのをどんどん増やしていくのも一つの方法ではないかなと思うんですね。どのようにすればそのような試験導入ができる仕組みになるのかというのは、すみません、ちょっとわからないんですけど。〇〇中学校が先にやるというような、そのようなことをしてみる体制が、つくれたらいいのではないかなというのが、案としてございます。

(近藤委員長)

例えば保護者連絡アプリのことなんですけど、ICT機器に関しては、パイオニア

校というのが中学校2校、小学校2校決まっております、その保護者連絡アプリもパイオニア校では9月からもう運用を開始していて、その中で様々な問題点など解消していただきながら、3学期からは全部の学校でという形になっています。実はうちの学校はパイオニア校でしたので、9月からもう保護者連絡アプリの運用を開始しているんですけど、これは本当に楽になりました。朝の電話の本数が激減しているのです。そして、使っている中でいろいろ改善していただいて、部活動の欠席連絡などもそれできるようにして、3学期から全校で開始という形になると思います。それから、部活動のことにしても、一応市の方としては、改善のモデル校を2校ぐらい決めて、まずはその学校で何ができるのかを試していこうということにはなっているので、何をやっていくかというのはこれからなんですけど。

(稲垣委員)

部活動はいろんな種類残してもらいたいです。身勝手なことなど重々承知なんですけど。それこそ合同でやるという形でもいいかと思うんです。うちの息子はサッカー一部で、ちょうど今回合同でやらせていただいているんですけど、それこそ合同でも構わないので、部活動の数を残してもらえたらなど。そうしないと、私立とかいろいろ考えなくてはいけなくなってしまう。私立が悪いわけではないんですけど、私立の需要が部活動のためだけに、私立の方の中学校に行くしかない、行きたいと考えることも増える、増えているという気はしているので。減らしてほしい、減らさなくてはいけないという会でありながら、減らさないでほしいという要望になってしまうのですが、よろしくお願いします。

(近藤委員長)

池田委員は保護者の立場から何かご意見はありますか。

(池田委員)

そうですね。部活動の話とかが、やはり先生たちに一番負担がかかるなとは思いますが、うちの息子が通っていた高校が、どの部活動もすべて17時半にはもう門を出るという。夏も冬も全部統一して、17時半までには全部片付けをして門を出るという高校で、小牧市ではないんですけど。それで、そのあとは先生たちが集中して進路のことなどがいろいろできるみたいな形で、どちらかというと部活動よりも勉強の方を一生懸命やるという学校だったので。なので、子供たちも帰ってきてから塾に行くとかいうのをすごくスムーズな形で。だから、部活が強いというわけではないんですけど、部活動の数はもちろんそのまま残っているし、みんなやりたい部活動は時間内にやるという形で、必ず土日のどちらかも休みだとか、そのように結構決まっていた高校だったので。なので、小中学校だったらやはり17時までにとか、先ほど話

していたように16時半にはもう下校するみたい。でも、短い時間でもやはり部活動は親としてはあった方が楽しかったし、応援するのも、子供たちががんばって見ているのもあるのはいいなと思うので。何かこう統一して決めたら、先生たちの負担も少なくなるのかなあというのと、先ほどのいろいろな会議のペーパーレス化とかという話も、私たちのこのPTA総会などでも、ものすごい枚数の資料を刷って、みんなで資料を作ったというのですごく大変で、もうそれを全部オンライン化ではなくて、資料で終わる。そうしたら保護者の人たちも、PTA総会行かなければとかいう気持ちとか、何か面倒くさいみたいな気持ちもなくなるから、もう総会をなくして資料だけにしようかという話とか。あとはやはり、いろんなものをペーパーレスにしていくように、今話し合いをされていて、なかなかすぐには使えないんですけど、今もそのような話し合いを役員の中ではしているところです。

(近藤委員長)

今、いろんな意見が出ましたけど、前原委員、いいアドバイスはありますか。

(前原委員)

アドバイスではないんですけど、話を聞いていて、やはり学校は、僕が若い頃仕えていた校長で、よく叱られたんですけども、そんな教育をしていたら、一般企業ならとっくにつぶれているぞと校長に言われたことがあります。それで、魅力は何だと。ようするに、お客さんは児童や生徒というのが中心にあって、その後ろには保護者やお家の方がいるんだと。そのニーズを捉えた上でやっていくというのであって、やり過ぎてしまって働き方改革というものがでてきたのだろうと思うんですけど、やはり親や児童生徒のことを考える部分と、それから先生方の働き方の部分をすり合わせていくことは非常に難しいと思うんだけど、それは根気よくやっていく必要があるというのが一つ。それから、時間や数値などでわかる数値目標、例えば19時からもう留守電ですよ、朝の7時半まではなど、そのような数値で測れるものがあるんだけど、先生たちの心の面のストレスがどうなんだろうかというのはあまり測れない部分があるんですよ。そうすると、途中でバキッと折れてしまって、調べてみたら、働く時間よりメンタル面でやられてしまった。これはもう数字にでないので、そういう部分も配慮していかなければいけないということで、管理職はこれから大変だなということで話を聞いていました。

(2) 教職員の働き方改革保護者向け文書について

(近藤委員長)

いろいろご意見いただきましたけど、これで打ち切るというよりは、こういうこと

を踏まえて、保護者文書を出さなきゃいけないんですが、その説明をまず事務局の方
お願いしていいですか。

＜事務局より「教職員の働き方改革保護者向け文書」の説明＞

(近藤委員長)

それでは先ほどの話し合いも踏まえて、この保護者向け文書をどうしていくかとい
うことについて、伊藤委員どうですかね。

(伊藤委員)

先ほどあったように、夏季と冬季というところの時間設定の見直しというのは、可
能性のあるところなのかなということを思います。やはり夏季は部活動長いですし、
下校時刻は遅くはなっているんですけども、冬季については、本当にある意味部活
動を行う時間はないぐらいで、短級が終わったらすぐに下校というような形で中学生
が過ごしておりますので、16時15分には学校を出ています。そうすると、16時
45分ぐらい。少し校区の広い学校だと、17時には家についているのではないかな
ということはあるので、そのあたりを考えると、18時ぐらいに少し早めるというの
も一つの方法なのかもしれないです。先ほど稲垣委員からもありましたが、親の立場
というところも踏まえて、また時間設定を考えていく必要があるのかなと思います。

(稲垣委員)

これ、電話連絡先ございますよね、2ヶ所。命、生命に関わることの緊急時の件と、
あと裏にも。どういうときにこれを使うかなんですけど。あと、この保護者連絡アプ
リにこの電話番号がわかるように表示をできれば、できそうにないんですけど。何か
できないかなという。

(池田委員)

この電話番号がおそらく周知されていないですよ、保護者に。

(稲垣委員)

すみません、勉強不足なので。ですので、保護者連絡アプリにしてもらえると、私
結構これよくて。先ほども言いましたけど、今までは8時までか、それぐらいに電話
をしないと先生方にご迷惑をかけるなとか、そういうことを気にしなくてもできるの
で、あれはすごくいいので、それこそここにある程度できたらいいとは思っています。

(近藤委員長)

今、学校の電話の受信時間の再検討というご意見と、緊急時の連絡先の二つですね。
学校閉校日中と何かがあったときという。これが保護者連絡アプリに表示できるよう

にならないかというご意見がありました。他はいかがでしょう。同意するご意見でもいいですし。

(事務局)

すみません、補足で。これ、1番のいわゆる時間外においてというのは、24時間対応ということでございます。これ繋がるのは市役所でございますので、特に夜中を含めた対応で、例えば命に関わる事案を想定しております。

一方で、学校閉校日ですので、本来今までですと学校閉校日の夏休みのこの期間においても、ご承知の通り、学校には日直というものを置いて、いわゆる勤務時間内でございます。学校によっては8時10分から16時40分までの間については、平日ならばどなたかがおみえになって、その業務をしていたということですが、小牧市の方で学校閉校日というこの期間において、平日においても、学校すべて閉じますということですので、その日中の時間帯においては小牧市教育委員会学校教育課の方で受けるということで。いわゆる学校閉校日においてはここですけれどもという部分と、時間的な次元の中で場所が違ってきます。一方で、この閉校日の間でも、1番の番号は市役所にかかりますので、当然、閉校日の間にそちらにお電話いただいた場合については、市役所の方から学校教育課の方に連絡をつなぐということになります。補足説明をさせていただきました。

(稲垣委員)

質問があつて、裏面の5というのは、時間が逆に決まっているということで、受け取ればよろしいですか。

(事務局)

はい、夏休み、学校閉校日期間中ということで。時間においても、その期間中ということになります。

(松浦委員)

こういう期間ですと、水曜日から火曜日ですから、土日も入りますよね。そうしますと、職員は休日出勤をするということですか。学校教育課の方は。

(事務局)

すみません、この書き方のところで今これ仮で書かせていただいておりますが、土日については明確にできるようにして、また出ささせていただくことになると思います。

(松浦委員)

では他の対応をするということですか。

(近藤委員長)

土日についてはおそらく1の方の番号になると思います。あとはいかがでしょう。

例えば先ほど、電話の時間対応の話がありましたけど、小学校なんかは、おそらくほぼ全校が教員の勤務時間までの部活動にしているませんか。夏季でも。

(梶田委員)

していますね。あ、夏季は少しはみ出ます。

(近藤委員長)

少しはみ出る学校もある。

(梶田委員)

少しだけはみ出ます。

(加藤委員)

はみ出るところの方が多と思います。

(近藤委員長)

はみ出るところの方が未だに多いんですか。小学校はもうそこに合わせてきたのかなと思っていて、中学校と小学校が同じ時間でいいのかなと思っていて。

(加藤委員)

まだやっている。

(近藤委員長)

まだやっているんですね。では、とりあえず夏季と冬季で若干時間を見直すという方向ではみんな一致したということよろしいですか。その時間は、やはり30分程度ですか。19時までには夏季は電話はつながるけれど、冬季は18時半とかですか。

(加藤委員)

夏季と冬季を何月からとか、そこまで細かく学校ごとで変わってくるのかということになってしまうので、もう年間通して19時以降というのを、例えば30分早めて18時半か、そちらの方がと自分は思いますが。

(松浦委員)

その方が周知もしやすいし、わかりやすいですね。父兄も。

(近藤委員長)

必要な電話は学校の方からかけたいときにはかかるものですから、いいのではないかなと思うんですけど。この意見としては、18時半に繰り上げてはどうかということ。

(稲垣委員)

一点確認なんですけど、学校の方からかけられるということになった場合に、それにかかって折り返しの問題が起きるのでは。逆に言えば学校からかけられない方が、折り返しの問題もなくなるので。学校から電話があったけれど、この時間はもうかけ

られないとか、そういう難しさもあるんですけど、ちょっとそこは親として気にしていただけると。

(事務局)

今の話ですが、やはり学校からはかけられるんだけれども、保護者からはという部分で、18時半や19時で区切られた場合は、当然学校からもかけないということを見せていただかないと、かけていただいた保護者の方については、学校から電話をもらったけれどかけ直したら留守番電話だし、役所につながれるしという話になってくるので、その時間帯のところが折衷案として19時というのが出てきたと思います。このところについてはご意見をいただいて、校長会等で検討をしていただきたいと思いますし、逆に18時半ということで決めたならば、やはりそれ以降については学校からも電話は原則として、緊急時の場合を除いてはかけないというようなものが必要なかなとは思っております。

(近藤委員長)

緊急の時以外はかけないんですけど、どうしてもかけなければいけないときというのは学校もありますよね。うちの学校では、かけた電話が留守電などになってしまった場合は、何時までなら折り返しをくださいとメッセージを入れさせていただいて、対応をしているんですけど。また少しこれはつめなくてはいけないところですね。では、設定時間以外のところで何か変えた方がいいところがありますか。

参考までに聞いてみたいんですけど、定時退校日を週1設定できていますか。

(加藤委員)

月1です。

(近藤委員長)

月1はつくれている。中学校はどうです。

(伊藤委員)

設定はしています。

(近藤委員長)

設定はしているけれどというところですね。

(伊藤委員)

はい、なるべくみんな早く帰ろうという声かけもしていたださっていますし、実際その日を意識はしているので、全体としての動きとしてはその日は少しみんな早めには帰っているかなというところですね。

(近藤委員長)

なかなかむずかしいですよ。あまり強く言うとなんを言っているんだという顔で見

られます。

(梶田委員)

小学校に来て思うのは、中学校も同じかもしれないですが、昔だと木曜日が5時間で切れていて、会議などが入らないときは特に5時間で切れて部活もなく子供も帰っていったんですが、今は会議がないとほぼほぼ6時間なんですよね。木曜日も。なので、なかなか木曜日に早く仕事をして早く帰ろうというのが言えない部分があり、努力目標として声はかけますけど、なかなか厳しいですね。ようするに、小学校では英語が入ってきたところで1時間多いので、なかなか厳しいところはあります。

(近藤委員長)

何か他にご意見ご質問ある方はおみえですか。

(池田委員)

やはりこの小牧市役所に電話するというこの電話番号の周知、これはいつからこのように決まっていたのかなと。

(近藤委員長)

もうかなり前から。このような文書がわざわざ出なくて、各学校からの夏休みの過ごし方みたいなプリントがでていたときも、緊急時はここへ、学校へつながらないときはここへという感じで載っていたのではないかなと思うんですけど。

(池田委員)

そうなんです。ちょうど今年の初めくらいに、土曜日にどうしても子供のことで学校に連絡とりたいというので連絡が来て、学校も先生たちがいるかわからないですし、どうしても連絡がとれなくて、どうしたら連絡が取れるんだろうということで、たまたま会長がここで働いているので、相談したらすぐにここに電話をすると対応してもらえると教えてもらったので、すごくスムーズに校長先生と連絡が取れたとその方は言っていたので、たまたま知っている人がいたからスムーズにいったんですけど、おそらく保護者の方は学校からもらう文書をすみずみまでしっかりと読んでいる人は少ないと思うので。私も全然知らなくて、本当にどうしたらいいかなと思って、味噌地区にいる先生のところにピンポンして困りましたって言った方がいいのかなって思ったんですけど、そうやって思う前にこの番号を教えてもらったので、すごくスムーズにいったんですけど、もう少しみなさんが普通に土曜日だから、緊急だからここに連絡しようとなるような形になるといいのかなと思います。それこそ先ほどのアプリでも番号を入れるとかすれば保護者の方もわかりやすいのかなと思いました。

(松浦委員)

今学校というのは、転送電話だとかそのようなシステムは入れてないんですか。

(近藤委員長)

入ってないですね。

(松浦委員)

アナログだね。本来は、土日とか休校日の日は、すべてここへ転送できるようにするとか、今の時代すぐにやってくれますからね。

(池田委員)

この番号を案内してくれるでもいいですよ。留守番電話に。

(松浦委員)

意外とアナログですね。先端を行ってみえるかなと思っていたけど。

(近藤委員長)

では、電話番号の周知や対応については要検討ということで。それ以外はどうですか。では、たくさんご意見をいただきました。ありがとうございます。今日いただいたご意見については、事務局で、または別の会議の場で再検討いただいて、保護者や地域の方にも十分に周知できるようにお願いします。

(3) その他

(近藤委員長)

(3)その他、事務局のほうで何か協議することはありますか。

(事務局)

その他は特にありません。

(近藤委員長)

ありがとうございます。

それでは、議事一切を閉じますので、司会を事務局のほうに返します。

(事務局)

長時間にわたるご審議ありがとうございました。今後の予定だけ説明させていただきます。

本日のこの会議の会議録を準備しまして、委員の皆様方に議事録を送付させていただきますので、内容について確認をお願いしたいと思います。

また、本日いろいろご意見をいただいた保護者向け文書につきましても、校長会議等でも検討していただき、文書の方をしっかりとまとめていきたいと思っておりますのでよ

ろしくお願いします。

それでは、これもちまして第2回小牧市教員の多忙化解消推進委員会を閉会いたします。どうもありがとうございました。